

大阪

あんなところ
こんなところ

『夕陽丘』

八月、お盆月の今回は、寺町「夕陽丘」について調べてみました。取材当日は雨にも関わらず、史跡巡りをしている方々に沢山出会った事が印象に残っています。歴史の散歩道と称される静かな町は、現代からタイムスリップしたような錯覚に陥る所でした。

家隆塚

夕陽丘という地名は、現在では、天王寺区夕陽丘町という町名や地下鉄四天王寺夕陽ヶ丘駅の駅名として残っていますが、かつては夕陽丘町を含む広いエリアの汎称地名で、夕日岡とも言われていたそうです。四天王寺の西側には海が迫り、上町台地からは海に沈む夕日を眺めることができたといえます。また、四天王寺の西門は、極楽浄土の東門に通じていると考えられ、春や秋の彼岸には落日拝謁修行が盛んだったそうです。

新古今和歌集の選者の一人である藤原家隆は、晩年官職を辞し、嘉禎2年（1236）

京都よりこの地に移り住みました。家隆は、夕陽庵せきやうあんという庵を設け、夕陽の

沈む彼方、西方にあるという極楽浄土に向かい念仏を唱えたといわれています。夕陽を見て詠まれた七首の内

契りあれば なにわの里に宿り来て
波の入り日を拝みつるかな

の歌が庵跡の家隆塚の碑に刻まれています。夕陽丘の地名はこの庵や和歌に由来しているそうです。



上町台地にある家隆塚

四天王寺

四天王寺は、推古天皇元年（593）聖徳太子により建立されました。正門である南大門、中門、五重塔、金堂、講堂と南から北へ一直線に並び「四天王寺式伽藍配置」といわれる形式は、日本で最も古い建築様式の一つとされています。

幼い頃より幾度となく訪れた四天王寺。今回、四天王寺境内には幾つもの石の伝承がある事を知りました。南門にある「熊野神宮遙拝石」という石。ここは、熊野参拝熱が盛んだった頃、熊野まで行けない人達が、この石の上に立ち熊野の方に向かい、これにてご勘

弁をと祈った所だそうです。また、西門の石の鳥居の手前の両側に立つ石柱はポンポン石と呼ばれています。上部にそれぞれ四角い穴があいており、この穴に耳を当てるとあの世から亡者の声が聞こえてくると言われています。石の鳥居を潜った所にある引導石は、葬儀の時にこの石の上に柩を置き、引導鐘を三回つくると聖徳太子が現れて、亡魂を善導すると伝えられています。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞